

# A・MUSEUM

vol.73  
[2012.12.15]



ミュージアムパーク  
茨城県自然博物館



サヤゴケの胞子のう（乾燥時：左上，湿潤時：右下）とタチヒダゴケの胞子のう（乾燥時：右上，湿潤時：左下）スケールは0.5mm



木の幹に群落をつくるサヤゴケ

## 小さなコケの小さな「花」

コケ植物の胞子のう（蒴）のことを「苔の花」とよぶことがあります。花は種子植物が種子をつくるためのものですので、厳密に言えばコケには花が咲きません。しかし、スギゴケのなかま（蘚類）の胞子のうを拡大すると、まるで花のようにみえることがあります。花びらのようにみえる部分は「蒴齒」とよばれる器官です。蒴齒は、種によって赤や黄色などに色づき、拡大すると宝石のような美しさを放ちます。また、蒴齒は湿度を感知して開いたり閉じたりし、胞子を散布するタイミングを調節することができる優れた器官でもあります。開くタイミングは種によって異なり、湿ったときに開く種と、乾いたときに開く種があります。コケの不思議な「花」を、皆さんもぜひみつけてください。（資料課 鵜沢美穂子）

特別展示

# 日本に残った植物 日本で生まれた植物

## アートでみる日本の固有植物

### 固有植物とは

ある特定の地域にのみ生息する生物種を固有種とい  
います。日本には約7,500種の陸上植物が分布し、そ  
の中で約2,700種が日本固有であるといわれます。こ  
のように日本の植物の多様性が高いのは、日本が北海  
道から琉球まで南北に長く、起伏に富む地形をもつこ  
とに起因しています。さらに固有植物の割合が高いの  
は日本列島がアジア大陸とつながったり分離したりと  
いう歴史が関係しているといわれます。日本の固有植  
物の多くは限られた狭い地域にのみ生育しており、絶  
滅危惧種に指定されているものも少なくありません。



ハマギク  
画：田端裕子

青森県から茨城県の太平洋  
岸に分布

一属一種で似た仲間は世界  
中どこにも見あたらない。  
学名は *Nipponanthemum  
nipponicum* という。

### 第3回のボタニカルアート展

当館で開催される日本植物画倶楽部会員によるボタ  
ニカルアートの展示は、今回で3回目になります。  
2003年には絶滅危惧植物をテーマに「アートが植物  
を救うー絶滅危惧種と植物画の世界ー」展、2008年  
には帰化植物をテーマに「海を越えてきた植物たちー  
アートでみる帰化植物ー」展を開催しました。そのと  
きの原画をもとに「日本の絶滅危惧植物図譜」、「日本  
の帰化植物図譜」が出版され高い評価を得ています。  
今回も展示された原画をもとに「日本の固有植物図譜」  
の出版が計画されています。（企画課 小幡和男）



コウヤマキ  
画：丸山きみよ

本州（福島県以南）・四国・  
九州に分布

一科一属一種の日本を代  
表する固有植物。かつて  
は世界中に広く分布した  
が、現在は日本に残るのみ  
である。

### アートでみる日本の固有植物

今回の特別展示は、この日本の固有植物をボタニカル  
アートで紹介します。ボタニカルアートとは、植物  
を正確にかつ精密に描いたもので、植物画ともよばれ  
ます。この展示は、すばらしいボタニカルアートを鑑  
賞しながら、固有植物とは何かを知り、さらに日本の  
固有植物がおかれている現状を知っていただくことが  
目的です。

会場には、日本植物画倶楽部の会員133名が描いた  
213種のボタニカルアートと、実物の植物標本を展示  
します。



タマノカンアオイ  
画：曾我恵子

関東南西部の狭い範囲に  
分布

カンアオイの仲間は日本に  
54種あるが、そのうち50  
種が固有植物である。日  
本で多様化した植物のグ  
ループといえる。

会 期 2013年2月2日(土)～2013年2月24日(日)

開館時間 9：30～17：00まで（入館は16：30まで）

休 館 日 毎週月曜日

※ただし、2月11日(月)は開館し、翌日が休館となります。

入 館 料 一般 520円 (420円)

高校・大学生 320円 (200円)

小・中学生 100円 (50円)

※( )内は20名以上の団体料金です。

※特別展示開催期間中は、通常時の入館料となります。

#### ●記念講演会「固有植物から見る日本の生物多様性」

講師：海老原淳氏（国立科学博物館植物研究部）

日時：2013年2月2日(土) 13:30～15:00

定員：300名（先着順）

場所：博物館内

対象：小学生以上

※お申し込みは電話（0297-38-0927，9：30～17：00）、また

はEメール（アドレス：webmaster@nat.pref.ibaraki.jp）にて  
参加者の氏名・年齢（学年）・住所・電話番号・お持ちの方はEメ  
ールアドレスをお知らせください。

#### ●記念講座「ボタニカルアートを描いてみよう」

講 師：館野京子氏ほか

日本植物画倶楽部会員にご指導いただきます。

日 時：2013年2月3日(日) 10：00～15：00

定 員：60名（先着順）

対 象：小学4年生以上

参加費：お一人様 300円（用紙代等）

※お申し込みは電話（0297-38-0927，9：30～17：00）、または  
Eメール（アドレス：webmaster@nat.pref.ibaraki.jp）にて参  
加者の氏名・年齢（学年）・住所・電話番号・お持ちの方はEメ  
ールアドレスをお知らせください。

※画材の植物、鉛筆(2BとHB)、水彩絵の具(できれば透明水彩  
絵の具)・面相筆(大小)は各自ご用意願います。

## 他施設ボランティアとの楽しい交流～自主研修視察～ 博物館ボランティア ③

博物館ボランティア（以下MV）の年間行事のなかに、自主研修視察という行事があります。この研修では、当館近隣の他施設を訪れて、その施設におけるボランティア活動を見学するとともに、ボランティア相互の交流を行うことで、自館における活動の充実を図ることを目的としています。

今年の自主研修視察は、水戸市植物公園に出かけました。9月21日（金）、小雨の降りそうな天気を横目に、21人のMVをのせたバスが朝8：00に博物館を出発しました。バスの中で、今日の研修の意気込みなどについて談笑しているうちに、あっという間に水戸市の植物公園に到着しました。

水戸市植物公園の西川綾子園長から園内を案内された後、当日の活動内容について、簡単な説明がありました。水戸市植物公園では秋に、“サルビアフェスティバル”を予定しているとのことで、その準備を当館MV全員でお手伝いすることになりました。さっそくサルビアの寄せ植え作業のお手伝いです。植物公園の“わくわくガーデンボランティア”約30名の皆さんと一緒に、和気あいあいと作業を行いました。途中、サルビアの花びらの効果的な見せ方や展示する際の注意点などを教わりながらの活動になり、一言で寄せ植えと

いってもなかなか奥が深く、当館MVの活動においても大変参考になる研修作業となったのです。

昼食後、それぞれのボランティアがお互いに活動のようすを紹介しました。質問が多数飛び交って、活発な意見交換の場となりました。その中でひとつ興味深い話ができました。植物公園では、水戸という土地柄から水戸徳川家ゆかりの薬草を展示しているなどの話もあって、植物をその地域の歴史と絡めて展示することのおもしろさを感じることもできたのです。

来年度は、植物公園のボランティアが当館を訪問したいという希望も寄せられ、今後も、より一層の交流を深めることができると、当館MVの楽しみも増えたようです。

毎年、行われている自主研修視察ですが、訪問先については、MVの役員会で検討されて決められています。来年は、どの施設を訪問しようかなどと考えるのもMV活動の楽しみのひとつとなっており、MVの活動は博物館内だけでなく、館外他施設との活発な交流も視野に入れた、広範な活動を行っていることがわかります。楽しく活動しながら、新しい視点・情報を取り入れ、日々進化していくMVを、来館される皆さんもぜひ注目してください。（教育課 小泉直孝）



全体集合写真。前列右から3番目が水戸市植物公園 西川園長



寄せ植えづくりのようす 植物園ボランティアとの交流

### 若い研究者たち

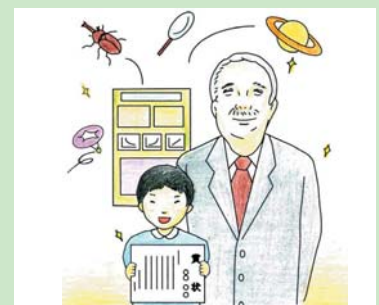
第56回茨城県児童生徒科学研究作品展が10月19日から10月23日の期間、当館で開催されました。

日本学生科学賞を兼ねているため、そちらへの展示が迫り開催期間が大変短く、多くの皆様に御覧いただけなかったのが残念です。いずれの作品も沢山の応募作品から選ばれたもので研究内容も充実し、各賞を選ぶのに審査にあられた先生方は大変苦勞をされておりました。

細かな観察を日々積み重ね膨大なデータを集め、分析し、自分なりの結論を導き出し、発表作品としてまとめた地道な努力の跡がしのばれる作品ばかりで、データ処理も上手で論文としての整合性もとれているものが多く見受けられました。中には専門家も発想し得ない仮説を立てて研究を行ったユニークな作品もあり、このような型にはまらない独自の発想こそが大切で、失敗を恐れず

### コラム by director SUGAYA

チャレンジしたその勇気と努力には、大いに将来が期待できます。



イラスト：上脇田直子（ミュージアムコンパニオン）

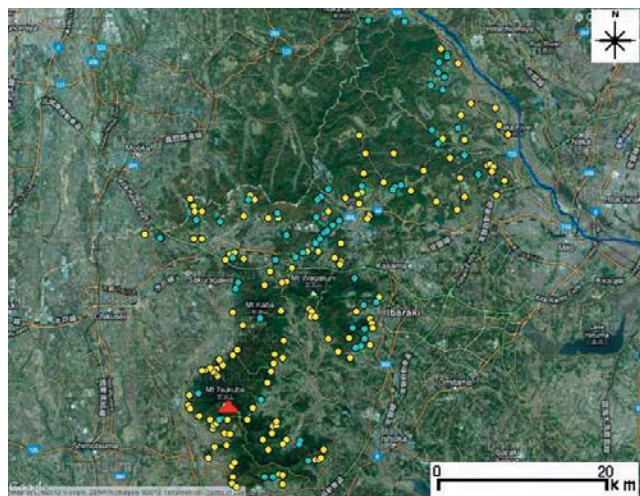
## 茨城県にムササビっているの？

研究ノート1

皆さんは、ムササビという野生動物を御存知でしょうか。大きさはネコぐらいで、クリクリの目とブタ鼻、フワフワの尻尾が特徴の可愛い動物です。彼らは樹洞などにすみ、日中は寝て過ごし、日が沈み辺りが暗くなる頃、巣穴から出てきて餌を探します。ムササビは地面を歩いて餌を探すのではなく、マントのような皮膜をひろげ木から木へピューッと飛んで移動し、おもに樹木の葉を食べて生活しています。

これまで当館では、ムササビが県内の特定の場所に生息していることは把握していましたが、茨城県全域に及ぶ生息分布調査を行ったことはありませんでした。ムササビは樹洞ができやすいケヤキやスギの巨木がある社寺林を中心に生息していることが知られています。そこで、ムササビが生活するために必要な1ha以上のまとまった樹林をもつ社寺林を調査地として選び、まずは那珂川より南側の地域で調査を実施しました。調査は、ムササビの特徴的な正露丸似の丸い糞を探し痕跡調査からはじめました。

その結果、約1年間で社寺林196か所を調査し、



調査したポイント（黄色）と痕跡が確認できたポイント（水色）の地図  
赤三角：筑波山 右上青いライン：那珂川

58か所で痕跡を発見することができました。じつは、調査をはじめめる前は、こんなにたくさんの場所で痕跡を確認できるとは思っていませんでした。森が分断された地域や住宅の近くにはないだろうと考えていたからです。しかし、民家の隣りや道路で分断されて孤立している社寺林でも糞を発見することができました。意外にムササビは、私たちが生活している地域に近い場所にすんでいることがわかりました。

また、ムササビをテレビや本でみて知っている人はたくさんいましたが、実際にみたことがある、鳴き声を聞いたことがあるという人は少ないことも印象的でした。敷地内に糞が落ちていのに、そこにすんでいる人がムササビの存在を知らないということが度々ありました。それだけひっそりと生きている動物なのかもしれません。

今年の7月に、筑波山神社でムササビの観察会を行いました。事前に何度も下見をして、みえる可能性の高い場所を調べました。当日は、飛ぶ姿をみることはできませんでしたが、枝の上にいるムササビをみることができました。今後も調査活動を通じてムササビの情報を発信していき、皆さんにもっとムササビのことを知ってもらいたいと思っています。（資料課 古家真由美）



調査中にスギの樹洞から顔を出したムササビ

### ドングリの工夫

どんぐりころころどんぶりこ…と歌にもあるようにドングリは、私たちにとって身近な存在です。そして動物たちにとっても大切な食糧となっています。

例えば、リスは餌が少なくなってしまう冬にそなえ、たくさんのドングリを口の中に詰めて巣穴に持ち帰ります。また巣穴の周囲に隠しておくという習性があります。しかしすべてを食べ尽くしてしまうわけではなく、深雪で掘り起こしができな

かったり忘れ去られてしまったりするものもあります。

ドングリは風によって運ばれたり、はじけたりして分布を拡大することはできませんが、動物の食糧として遠く運ばれる、貯食散布という方法をとっています。

貯食散布では、その多くが動物たちに食べられてしましますが、一方で動物の手を借り分布をひろげ、運ばれた場所で着実に芽を出すのです。

（展示解説員 吉田 薫）

### 小さな発見—ミュージアムコンパニオン—



リスとドングリ

# 茨城県におけるコハクオナジマイマイの分布拡大と農作物被害

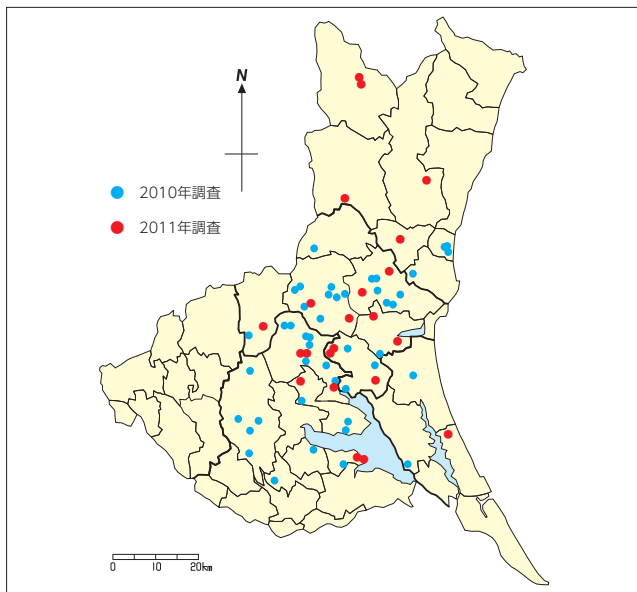
研究ノート2

## コハクオナジマイマイとは？

コハクオナジマイマイは、オナジマイマイ科に属する殻径15mmほどの小型の陸貝です。薄い半透明の殻をもち、殻の中心部にある内臓が黄色く透けてみえるのが特徴です。この種は日本固有で、もともとは九州地方で知られていましたが、1990年代になると、千葉県や神奈川県でも生息が確認されるようになりました。またその後、2000年代になって、東京都や埼玉県のほか、茨城県でも目撃されています。

## 茨城県における分布状況

2009年7月、笠間市の菜園でコハクオナジマイマイが大発生したのを機に、主に小学校や当館の来館者の協力を得て、茨城県全域における生息調査を実施しました。その結果、太子町を北限とし、笠間市、石岡市、小美玉市、水戸市など、県央・県南地域を中心に茨城県内の広い範囲でコハクオナジマイマイが生息していることが明らかになりました。



茨城県のコハクオナジマイマイの生息記録

コハクオナジマイマイは2000年代のはじめから、笠間市をはじめ、つくば市、かすみがうら市、石岡市で目撃されています。茨城県への移入経路については不明ですが、目撃情報や分布状況から、この種は2000年代はじめには茨城県内に移入され、その後、県央・県南地域を中心に分布を拡大していったのではないかと推測することができます。

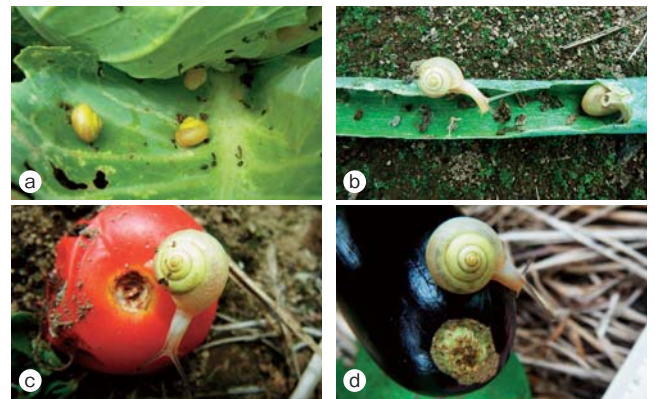
## 農作物への被害

現地調査では、笠間市の菜園で野菜への被害が確認され、特にアカジソ、ブロッコリー、キャベツ、ネギなどの葉菜類やトマト、ナス、キュウリなどの果菜類への被害は甚大でした。また、農作物への被害はほかにも水戸市（菜園）、石岡市（菜園）、小美玉市（タバコ畑）、茨城町（ニラ畑）などで確認されています。

茨城県ではこれまでオカモノアラガイによる農作物への被害例がありましたが、コハクオナジマイマイによる被害はそれよりも深刻です。今後、何らかの防除対策が必要になってくると考えられています。

（資料課 池澤広美）

※本研究は学術研究助成基金助成金（基盤研究(C), No. 23501229）および公益信託「エコーいばらき」環境保全基金によって実施されました。



被害された野菜（2009. 8. 7、笠間市の菜園）  
a: キャベツ, b: ネギ, c: トマト, d: ナス

## アオウオ

下流水槽には、体色が青黒く体長が1mほどの魚「アオウオ」が展示されています。この魚は、中国から移植され今は霞ヶ浦や利根川で見られます。自然界では、主に貝類や甲殻類を食べて生活するおとなしい魚です。

当館ではアオウオの他にコイやスズキなどの魚たちも一緒に展示しています。下流水槽には食欲旺盛な魚が多く、餌の時間には奪い合いが始まります。アオウオは、日ごろのん

びりと泳ぐか水槽の角でじっとしていることが多く、毎回のよう他の魚に餌を横取りされてしまいます。アオウオが餌を食べられるように、水槽の様々なポイントを選び、大きく切ったアジの切り身をアオウオの顔近くに投げ入れます。他の魚とアオウオの動きを考えながら、餌を正確に落とさなくてはならないので、与える方も一苦労です。しかし、のん

## おさかな通信

びりとした性格のおかげか当館では最も長く生きています。世話の焼ける魚ですが、今後も長生きしてほしいものです。（水系担当 武藤 唯）



アオウオ

## 1960年代に採集された涸沼ニシン

### 収蔵品紹介

涸沼は水戸市の南方約10kmに位置し、面積が約9.4km<sup>2</sup>の東西に長い湖です。涸沼は、那珂川・涸沼川を介して潮汐の影響を受け、定期的な換水によって塩分濃度の変化が起きる関東地方唯一の汽水湖です。ヤマトシジミやヒヌマイトトンボはこのような涸沼の水環境に適した生きものであり、かつては「涸沼ニシン」とよばれる涸沼湖内で産卵する湖沼産卵型ニシンも多数生息していました。

私が当館に赴任して8か月が過ぎた2009年の11月末、一通のメールが届きました。相手は10月初旬に開催された日本魚類学会で名刺交換をした茨城大学広域水圏環境科学教育研究センターの加納光樹さんでした。内容は、センター近くの国有地にかつて実験所として使われていた古い建物があり、取り壊すに当たって建物内の物品を確認したところ1960年代に当時の茨城大学の教官によって涸沼で採集された魚類標本が出てきたので当館で収蔵できないかというものでした。文面中には「いまや絶滅寸前の涸沼産ニシンを含む」とありました。

涸沼ニシンは1980年を過ぎると急激に減り、研究者がこの深刻さに気がついたときには国内の研究機関や博物館に標本が40個体しか残されていませんでした。早速、加納さんに返信メールを送り、収蔵

(寄贈)に向けた準備に取りかかりました。第一陣として2010年3月31日に涸沼ニシンの稚魚10個体が届けられ、次に2012年1月14日に涸沼ニシン26個体を含む、降海型イトヨ、ヤリタナゴ、タナゴ、キンブナなど1,313個体の標本が寄贈されました。この間、加納さんが指導する大学生の金子誠也さん、碓井星二さん、百成渉さんがさらに標本の整理と分析を行い、私と水戸市立博物館の鎌田洸一さんが協力するかたちで日本生物地理学会会報と日本魚類学会年会で研究成果が発表されました。

茨城大学での標本発見によって国内に残る涸沼ニシンの標本は、水戸市立博物館に寄贈された標本202個体も含めると一気に278個体に増えました。稚魚を含むこれらの標本は、かつて涸沼がニシンの産卵場であったことを示す重要な証拠として後世に引き継がれます。(資料課 増子勝男)



寄贈された涸沼ニシンの稚魚標本

## アオノリュウゼツランがつなげた命のバトン

### 地域の話

夏真っ盛りの頃、坂東市幸田の小林久さん方でアオノリュウゼツランの花が開花しました。アオノリュウゼツランは中南米に自生する植物で身の丈を超えるような大きな多肉質の葉をつける植物です。葉の縁にはトゲがあり、まさに龍の舌のようです。花は30~50年に一度しか咲かず、直径約15cm、高さ約7mの花茎が伸び上がる姿を一目みようと思開花中には多くの方が訪れました。

しかし、この植物は開花後に枯れてしまうという運命を背負っています。まさに数十年の命を込めて次世代の種子をつくるのです。坂東の地で30年以上生きてきたというアオノリュウゼツランの最後を見届けようと、開花直前から足を運びました。

8月中旬には下の方のつぼみから開花しはじめ、長さ約5cm、直径約2cmの筒状の花をびっしり咲かせていましたが、9月初旬にはほぼすべての花が咲き終わりました。9月末には花が散り、葉の先はぐったりと垂れ、茶色く枯れつつありました。必死に咲かせた花は、もともと結実率が低いことに加え、自生地で花粉を運ぶ大型のコウモリが本州にはいないため、ほとんどが実になっていないようでした。

少し残念な気持ちで株の周りを一回りしたところ、枯れゆく親株の根元に生き生きと葉を茂らせる子株があるではありませんか！リュウゼツランは子株を根元につくことで見事に次の世代へ命のバトンタッチを成功させていました。

小さな株がこのまま順調に育てば、また30~50年後に立派な花を咲かせてくれるでしょう。次のバトンタッチも成功することを祈って明るい気分でその場を去りました。(資料課 宮本卓也)



左：開花直前のアオノリュウゼツラン 右上：アオノリュウゼツランの花 右下：枯れゆく親株(奥)と新たに生まれた子株(手前)

## トピックス

### ○10月から展示室に新しい展示が加わりました

第5展示室の最後のコーナー、中庭のみえる場所に「ビッグレッドデータブック」が設置されました。

高さ2mを超える大きな本は、表紙が赤くなっており、絶滅危惧植物の情報を集めたレッドデータブックをイメージしてつくられています。開いているページでは、湿地や草原、山地など生育環境ごとに108種の絶滅危惧植物を紹介しています。

その隣、中庭を望むガラス面には環境省が今年度改訂した絶滅危惧植物1,779種の種名を、茨城県の絶滅危惧種として重要なタチスミレやミヤマスカシユリのイラストとともに掲載しています。

覚えている方もいると思いますが、この大きな展示物は今年の春に開催していた企画展「植物たちのSOS－レッドデータブックからの警告－」で展示していたものです。今回、その一部をリニューアルし常設化しました。（資料課 野堀秀明）



ビッグレッドデータブックのコーナー

### ○自然観察会「鉱山跡でレアメタルをさがそう」

企画展「鉱-レアメタル, レアアース, 新資源を探せ-」の記念イベントとして、11月11日（日）に城里町で自然観察会「鉱山跡でレアメタルをさがそう」を行いました。かつて茨城県でも産出していたレアメタルの1つが、私たちの身のまわりでもよく利用されているタングステンです。今回の観察会では、かつてタングステンを採掘していた高取鉱山跡に行き、その鉱石である「鉄重石」をさがすことが最大の目的でした。

林道を歩いて数十分ほどのところに、鉱山から採掘された鉱石のズリ（捨て石）が大量にあります。ズリのなかからこれだと思える石を拾い上げて観察し、黒く輝く板状の鉄重石を次々に見つけていきます。今回の観察会最大の目的を達成したあとは、参加者の皆さんの興味は美しく透明な「水晶」へと次第に移っていきました。大人も子どもも夢中になって足元の石を観察し続けます。入念な観察の結果、なかには太さ4～5cm程もある見事な水晶をみつけ出した人もいました。

このほかにも錫石、黄鉄鉱、黄銅鉱、孔雀石などさまざまな鉱物がみつき、皆さんは大満足の様子でした。（教育課 赤羽岳彦）



鉱山跡のズリから鉱物をさがす

### ○ベトナム国立自然博物館と協力関係を結びました

去る10月20日、当館とベトナム国立自然博物館との間に業務提携にかかる覚書が締結されました。ベトナム国立自然博物館はベトナム科学技術アカデミーに所属し、ベトナムの自然に関する資料の収集、保存、展示、およびピジターへの自然科学に関する教育普及啓蒙活動を行うことを目的に2006年に設立された団体です。現在大きな展示施設はもっていませんが、2013年に約400㎡の生物進化展示館の開設を、2016年にさらに本格的な博物館の建設を予定しています。

当館とベトナム国立自然博物館は、これまでも交流を進めてきました。2012年7月には、ベトナム科学技術アカデミー副総裁であるグエン・ディン・コン氏をはじめ6名の視察団が当館を訪れ、展示室や野外施設、収蔵施設などを見学しました。当館の視察は、2007年9月に続いて2度目になります。

今回の覚書は両国における科学的調査研究と、ベトナム国立自然博物館建設における設計に関する助言を目的として締結されたものです。この覚書をきっかけに日本とベトナムとの学術的な交流を進めていきたいと思います。（企画課 泉水正和）



ベトナム国立自然博物館の視察団と当館職員（前列左から3人目がコン副総裁、4人目が当館の菅谷館長）

# 入館者800万人を達成！！



記念式典のようす



橋本知事からの記念品授与

2012年10月6日（土）の正午前に、当館の入館者が800万人に達しました。これは、1994年11月13日の開館から17年11か月での達成となりました。

800万人目となったのは、千葉県野田市から一家4人でご来館の小学4年生、名取穂香さんでした。

当日は一報を受けた橋本昌茨城県知事も駆けつけ、エントランスで記念式典が行われました。この日は奇しくも第56回企画展の初日で、そのオープニングセレモニーが行われている中での達成ということもあり、会場は多くのお客様で賑わいました。式典では、くす玉割りや記念植樹で800万人達成を祝い、菅谷館長から記念入館の証明書が、橋本知事からは恐竜のぬいぐるみなどの記念品が穂香さんに贈られました。

名取さん一家は、年に3、4回当館を訪れており、穂香さんは恐竜、とくにティラノサウルスが大好きとのことで、「800万人は知らなかったです。恐竜のぬ

いぐるみがもらえてうれしい。」と話していました。

当館は毎年多くのお客様に御来館いただいております。昨年度発生した東日本大震災の際も大きな影響を受けることなく、このたびの入館者800万人を達成することができました。そして、再来年の2014年には開館20周年を迎えます。これからも皆様が楽しく利用できる博物館づくりを目指してまいりますので、ぜひ当館に足をお運びください。（企画課 富永敬之）

## 編集後記

残すところ1か月となった「鉱 ーレアメタル、レアアース、新資源を探せー」ですが、vol.72でお知らせした、オリンピックメダルは、本県出身の金メダリストお二人からの協力により、大判小判と一緒に展示されております。テレビではおなじみの金メダルも実物を間近にみる機会はなかなかありません。展示ケースの中で燦然と輝く、二つのアテネオリンピック金メダルをこの機会にじっくりみてみませんか。（j.t.）

## 【交通案内】



## 【車ご利用の場合】

- 常磐自動車道谷和原ICから20分  
【鉄道・バスご利用の場合】
- つくばエクスプレス守谷駅下車  
～関東鉄道バス「岩井行き」乗車  
～「自然博物館入口」下車、徒歩5分
- 東武野田線愛宕駅下車  
～茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車  
～「自然博物館入口」下車、徒歩10分  
※事前に発車時刻等をご確認ください。



## 【入館料】

区分	本館・野外施設		野外施設のみ	年間パスポート
	企画展開催時	通常時		
一般	720円 (580円)	520円 (420円)	200円 (100円)	1,500円
高校・大学生	440円 (300円)	320円 (200円)	100円 (50円)	1,000円
小・中学生	140円 (70円)	100円 (50円)	50円 (30円)	300円

（注：（ ）内は団体料金（20名以上）  
未就学児・満70歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方は入館無料です。  
次の日は入館料が無料です。

- 5月4日（みどりの日） ●6月5日（環境の日）
- 11月13日（茨城県民の日） ●3月20日（春分の日）
- 高校生以下の児童・生徒は毎週土曜日  
（ただし、春・夏・冬休み期間中を除きます。）

## 【休館日】

- 毎週月曜日
- ※12月28日（金）～1月1日（火）は休館となります。
- ※12月24日（月）・1月14日（月）・2月11日（月）は開館し、翌日が休館となります。



## 自然博物館ニュース A・MUSEUM(ア・ミュージアム)

A・MUSEUM (AMUSEMENT+MUSEUM)

企画・編集：ミュージアムパーク茨城県自然博物館企画課 / 発行2012年12月15日  
〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL0297-38-2000 FAX0297-38-1999  
URL <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>  
E-mail [webmaster@nat.pref.ibaraki.jp](mailto:webmaster@nat.pref.ibaraki.jp)  
メールマガジンも配信中。登録はホームページから

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しめ、誰もが楽しめるア・ミュージアム（アミューズメント+ミュージアム）をめざしています。